

# 「ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ」の 超大学イベントの実施状況

小 出 秀 雄<sup>1</sup>

## 1. はじめに

福岡超大学環境ゼミナール、通称「ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ」は、西南学院大学の「教育インキュベートプログラム」の一つとして、経済学部の小出ゼミ（3年・4年）が中心となって進めている、学生の基礎能力を向上させるための取組である。

教育インキュベートプログラムとは、2012年度後期から開始した、西南学院大学の教育の充実と強化につながる取組であり、学部や学科だけでなく、ゼミや事務局各部署といった単位でも申請することができる。小出ゼミは3カ年（6セメスター）にわたり、このプログラムに基づく補助を受け、福岡超大学環境ゼミナールを運営・実施しているところである。

本資料は、これまで実施してきたふくお環<sup>かん</sup>ゼミの「全体の取組」、すなわち「超大学イベント」（beyond-college event）の概要を紹介するものである。なお、小出ゼミでは、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの「日常の取組」としていくつか実行していることがあるが、本資料ではこの取組について割愛する<sup>2</sup>。

また、本資料は2013年12月初旬に執筆されたものであり、出版される頃にはすでに次のイベントの企画が進行している。ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの詳細や近況については、筆者が管理しているふくお環<sup>かん</sup>ゼミのホームページ<sup>3</sup>を参照されたい。

---

1 西南学院大学経済学部経済学科教授，福岡環境学際フォーラム運営代表。本資料に関するお問い合わせは、<koide@seinan-gu.ac.jp>または<<http://www.facebook.com/hideo.koide.96>>まで。

2 例えば、拙稿「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ）を通じた学生の基礎能力向上の模索」『第62回九州地区大学一般教育研究協議会議事録』所収予定を参照のこと。

## 2. ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの目的

まず、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの主な目的を紹介する。

福岡都市圏には多くの大学があり、その多くの学部の講義やゼミ・研究室において、環境問題・エネルギー問題を学ぶことができる。

とはいえ、環境問題は自然現象から人間の振る舞いに及ぶ、長く複雑なプロセスから構成されており、単一の学問を学ぶだけで理解できるものではない。

また、環境問題自体が多岐に及ぶため、学生が積極的に研究したい問題について担当教員がよく理解していないことが原因で、例えばゼミ内のレポートや卒業論文の作成において、有益な指導ができないこともしばしばある。

そこで、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミは、環境問題の効果的な教育方法を確立するために、次の3つの目的を掲げている。

- (1) 文系・理系の学生たちが定期的集まり、ともに学び発言する機会を創る。
- (2) その学生たちが主体的に協同し、双方の研究分野を理解しようと努力する。
- (3) 学生を指導する立場の教員がその活動を見て、自身の教育姿勢を改善する。

その上で、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミが達成すべき目標を、以下のように3つの大項目と、3つずつの小項目に分けて設定している。

### 【目標1】母体である小出ゼミメンバーの積極的な活動

- ふくお環<sup>かん</sup>ゼミのリーダー（小出ゼミの各学年幹事）が次にすべきことを把握し、小出ゼミのメンバーおよび他大学のゼミ・研究室の代表者に必要な連絡をする。
- 勉強会での討論者、研究発表会での発表者に積極的に立候補して、一定の成果を挙げる。
- ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの活動に、すべてのメンバーが何らかの形で関与する。

### 【目標2】文系・理系を超えた環境問題および研究手法の相互理解

- 施設見学会で同じものを見聞きして、その感想を言い合うことができる。

- 勉強会や研究発表会でお互いの取り組んでいることをある程度理解するとともに、意見を交換することができる。
- 勉強会や研究発表会で得た経験を、自分たちの研究に役立てることができる。

### 【目標3】ゼミ・研究室の担当教員の姿勢の変化

- 一連の行事に参加して、自分のゼミ・研究室のメンバーの姿勢に良い変化を見出す。
- 自分の日常の教育内容に取り入れたい、新たな発見がある。
- その発見を、教育内容に実際に反映させる。

図表1は、発足当初からのふくお環かんゼミのイメージである。福岡市内で環境問題を学ぶ5大学、6つのゼミ・研究室の教員・学生有志によって、ふくお環かんゼミは成り立っている。

この図表の記述と若干重複するが、ふくお環かんゼミには以下の6つのゼミ・研究室が参加している（順不同、敬称略）。学部 성격上、■は文系のゼミ、◆は理系の研究室として区別されるが、文系でも数学、理系でも制度について勉強していることに、注意が必要である。

図表1 ふくお環かんゼミの体制



出所：筆者作成，2013年11月22日の秋期勉強会にて使用。

- 西南学院大学経済学部・小出秀雄ゼミ
- 西南学院大学法学部・勢一智子ゼミ
- 福岡工業大学社会環境学部（大学院社会環境学研究科）・鄭雨宗ゼミ
- 九州産業大学経済学部・本間聡ゼミ
- ◆九州大学工学部（大学院工学府）・環境制御工学研究室（担当：中山裕文）
- ◆福岡大学工学部（大学院工学研究科）・水理衛生工学実験室（担当：鈴木慎也）

### 3. ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの超大学イベント

ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの取組は、大きく2つに分けられる。一つは、約3カ月に1回、大学を超えて学生が集う「全体の取組」である。これを、「超大学イベント」(beyond-college event) とよんでいる。もう一つは、小出ゼミが人前で話す度胸や説得力のある対話能力を養う、「日常の取組」である。

前述のように、以下では日常の取組についてはふれず、超大学イベントの実施状況についてのみ記述する。

図表2は、2013年度後期末までの超大学イベントの一覧である。本資料の執筆時点で、7番目はこれから実施するイベントである。2014年度以降も、同様のイベントを開催する。

図表2 超大学イベント（2013年度後期末まで）

No.	実施日	会合名	内容	参加者数
1	2012/8/20(月)~21(火)	施設見学会	熊本・南関・大牟田の環境エネルギー関連施設の見学，意見交換	46
2	2012/11/23(金)	秋期勉強会	2講演，講演者と学生による討論会	115
3	2013/2/22(金)	研究発表会	1講演，6発表	46
4	2013/6/7(金)	春期勉強会	1講演，8発表 c/w 「ふくお環 <sup>かん</sup> たび」コンテスト	124
5	2013/8/19(月)~20(火)	施設見学会	福岡・大分・熊本の環境エネルギー関連施設の見学，意見交換	39
6	2013/11/22(金)	秋期勉強会	1講演，5発表 c/w 「ふくお環 <sup>かん</sup> たび」グランプリ決定戦	106
7	2014/2/20(木)	研究発表会	発表募集中（2013年12月時点）	未定

出所：筆者作成。

なお、表中の「ふくお環<sup>かん</sup>たび」という記述は、エフコープ生活協同組合による、2013年度の環境助成事業である<sup>4</sup>。筆者が運営代表を務める「福岡環境学際フォーラム」が補助を受け、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミとカップリングの形で (c/w)、大学生のチームによる企画コンテストと企画実施報告会（グランプリ決定戦）を開催している<sup>6</sup>。

**図表 3** は、これまで西南コミュニティーセンターのホールで開催した4つの超大学イベントに関して、参加者の所属を示したものである。この図表の行番号は、図表2のそれと対応している。

小出ゼミの学生が、これらのイベントの企画・運営に携わっている。当初は筆者が仕事の分担を指図することが多かったが、一度経験すれば学生は要領を得るので、基調講演のテーマ選定や交渉、プログラムの編成、フライヤー（チラシ）の制作など、中枢の仕事も彼ら・彼女らに委託している。

例えば、**図表 4** は、2013年11月の秋期勉強会を広報するために、女子学生3名が作成したフライヤー（表面）である。プログラム編成も、彼女たちに任せた。また、**図表 5** は、同年8月の施設見学会に持参するため、男子学生2名が作成した「旅のしおり」（三つ折りの表面）である。いずれも、筆者の拙いPC操作能力では、とても想像が及ばない作品に仕上がっている。筆者はこの間、これらの原案をメールで受信し、修正や改善すべき点を伝えるだけである。

このように、学生に手分けして仕事してもらった方が、創意工夫を生かした素晴らしいものができると同時に、このようなイベントのために、前もって何を分担してやらなければならないかを考えてくれるようになる。

その中心を担うのは、各学年のゼミ幹事である。通常のゼミが終わったあとで、あるいはメーリングリストやLINEを通じて、来るイベントの打ち合わせを行っている。筆者は携帯電話等を持っていないため、メーリングリスト上のやりとりを知るのみである。

ところで、図表3から明らかなように、ふくお環<sup>かん</sup>ゼミの超大学イベントでは、大学の教職員を含めた社会人が必ず参加している。この図表には記載していない施設見学会についても、同様である。

これは意外に重要なことであり、大学生と社会人が気軽にコミュニケーションする、一

---

4 <http://www.fcoop.or.jp/news/info/2013/130902-4.html>

5 <http://fukuokagakusai.com/>

6 <http://fukuokagakusai.com/tabi/>

図表 3 勉強会・発表会での参加者

No.	実施日	会合名	参加者の所属	参加者数
2	2012/ 11/23(金)	秋期勉強会	<p>【社会人】西南学院大学（経済学部，法学部），福岡工業大学（社会環境学部），九州産業大学（経済学部），九州大学（東アジア環境研究機構ほか），東洋大学（国際地域学部），福岡県（商工部国際戦略総合特区推進室），（公社）福岡県産業廃棄物協会，西部ガス(株)（総合企画室）</p> <p>【大学生】西南学院大学（経済学部，法学部），福岡工業大学（社会環境学部，大学院），福岡大学（工学部，大学院），九州大学（大学院），東洋大学（大学院），鳥根大学（学部不明）</p>	115
3	2013/ 2/22(金)	研究発表会	<p>【社会人】西南学院大学（経済学部，法学部，人間科学部，総務課，図書館，教育・研究推進課），福岡工業大学（社会環境学部），九州産業大学（経済学部），福岡大学（工学部），京都府立大学（大学院生命環境科学研究科），福岡市（環境局），武雄市（つながる部），（公社）福岡県産業廃棄物協会，西部ガス(株)（総合企画室），再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本</p> <p>【大学生】西南学院大学（経済学部，法学部，文学部），福岡工業大学（社会環境学部，大学院），福岡大学（大学院），九州産業大学（経済学部），九州大学（経済学部）</p>	46
4	2013/ 6/7(金)	春期勉強会 c/w 「ふくお環 <sup>かん</sup> たび」 コンテスト	<p>【社会人】西南学院大学（経済学部，法学部，総務課，教育・研究推進課），福岡工業大学（社会環境学部），福岡市（環境局），（公社）福岡県産業廃棄物協会，(株)寺松商店，ジャパン九州ツーリスト(株)，環境テクノス(株)，(株)山口油屋福太郎，グラウンドワーク福岡</p> <p>【大学生】西南学院大学（経済学部，法学部，文学部），福岡工業大学（社会環境学部，大学院），久留米大学（法学部，商学部），久留米工業大学（工学部）</p>	124
6	2013/ 11/22(金)	秋期勉強会 c/w 「ふくお環 <sup>かん</sup> たび」 グランプリ決 定戦	<p>【社会人】西南学院大学（経済学部，法学部，文学部，人間科学部，総務課，広報課，教育・研究推進課），福岡工業大学（社会環境学部），元山形大学，元東北大学，（公社）福岡県産業廃棄物協会</p> <p>【大学生】西南学院大学（経済学部，法学部，文学部，人間科学部，国際文化学部，商学部，大学院），福岡工業大学（社会環境学部，大学院）</p>	106

出所：筆者作成。

図表 4 2013年の秋期勉強会のフライヤー（チラシ）

主催：西南学院大学 教育インキュベートプログラム  
「福岡超大学環境ゼミナール～「ふくお環かんゼミ」で創る学生の環り～」(経済学部・小出ゼミ)

## 福岡超大学環境ゼミナール (ふくお環かんゼミ)秋期勉強会 《「ふくお環かんたび」グランプリ決定戦》

日時：2013年11月22日(金) 13:00～16:40  
会場：西南コミュニケーションセンター 1階ホール  
(福岡市早良区西新6-2-92 西南学院大学内)



### プログラム




1. 開会挨拶 13:00～13:10  
小出秀雄(西南学院大学経済学部教授、「ふくお環かんゼミ」取組責任者)
2. 基調講演 13:10～14:10  
陶野郁雄氏(元国立環境研究所、元山形大学)  
『ゆるる大地、しずむ大地』  
～休憩～ 14:10～14:30
3. 「ふくお環かんたび」グランプリ決定戦 14:30～16:10 主催：福岡環境学院フォーラム  
コンテストを勝ち抜いた西南学院大学、福岡工業大学5チームによる企画実施報告
4. 表彰式&総評 16:30～16:40

勉強会終了後、懇親会を予定しております。ご出席くださる方は、お手数ですが11月20日までに下記(小出)までご連絡ください。

お問い合わせ先：西南学院大学経済学部 小出秀雄 TEL:092-623-4318 E-mail: koldo@econ-swu.ac.jp	作成：3年小出ゼミ 平野 石川 松野
---	--------------------

出所：平野藍・石川晴香・松野彩（3年小出ゼミ）作成。

図表 5 2013年の施設見学会の「旅のしおり」

<p><b>◎スケジュール</b></p> <p><b>2018/8/19</b></p> <p>9:40 集合 (博多駅築紫口)          10:00~10:50 移動(→山田サーブিসエリア)          10:50~11:40 施設見学、昼食          11:40~13:00 移動(→八丁原地熱発電所)          13:00~14:10 施設見学          14:10~15:15 移動(→(株)トライウッド)          15:15~17:20 施設見学          17:20~18:20 移動(→内牧荘)          18:30~20:00 食事(懇親会)</p> <p><b>2018/8/20</b></p> <p>7:30 朝食          9:00~9:30 移動(→阿蘇にしはらウィンドファーム)          9:30~10:30 施設見学          10:30~11:30 移動(→桜の馬場城彩苑)          11:30~16:00 自由行動(→13:30、討論会)          16:00~18:00 移動(→博多駅)          18:00 解散</p> 	<p><b>◎QR コード一覧</b></p>  (株)トライウッド <a href="http://www.tty-wood.com/">(http://www.tty-wood.com/)</a>	<p><b>◎ふくお環かんゼミ施設見学会</b></p>  <p><b>日程：8/19~8/20</b>  <b>代案者：小出輝雄</b>  <b>引率者：岡田勇</b>  <b>参加者：約40名</b>  <b>プログラム作成：岩田・梶野</b></p>
<p><b>2</b></p>	<p><b>6</b></p>	<p><b>1</b></p>

出所：岩田崇史・梶野純輝（3年小出ゼミ）作成。

種のキャリア教育の実践の場となっている。特に、企画発表や研究発表を行った勇気ある学生に対して、社会人はコメントするだけでなく、自身のさまざまな経験を教えてくれ、励ましてくれる。

当初のふくお環かんゼミの目的では、他大学の学生同士だけが仲良くなることを想定していたが、実は社会人も仲良くなれる機会なのだということがわかった。お互いリラックスした状態で、とはいえやや緊張しながら、社会の先輩と会話が（練習）できるとは、何と有意義なゼミであろうか！

そういう意味で、この超大学イベントはいわゆるインカレ（intercollegiate event）に留まらず、大学の境界を超えて社会と積極的に対話する機会（beyond-college event）である、と考えている。



#### 4. 各超大学イベントの実績

本節では、これまで開催した6つの超大学イベントの概要と、暫定的な評価を示す。基本的に、ふくお環かんゼミのホームページですでに公開している内容に沿っているが、ホームページでは名字だけに控えていた学生のフルネームを明記してある。

なお、以下の写真は、最後の1枚を除きすべて筆者が撮影したものである。

##### [No.1] 熊本・南関・大牟田の施設見学会（→写真1，写真2）

- 日 時：2012年8月20日(月)～21日(火)
- 参加者：西南学院大学小出ゼミ25，福岡工業大学鄭ゼミ11，九州産業大学本間ゼミ7，九州大学大学院2，(公社)福岡県産業廃棄物協会1，計46名
- 旅 程：博多駅筑紫口→北熊本サービスエリア〔昼食〕→株式会社エコポート九州（熊本県熊本市）→セキアヒルズ・メガソーラー（熊本県南関町）〔懇親会，宿泊〕→九州電力株式会社メガソーラー大牟田発電所（福岡県大牟田市）→イオンモール大牟田〔昼食〕→大牟田市エコサックセンター，大牟田・荒尾 RDF センター，大牟田リサイクル発電所→エコサックセンターにて意見交換会→博多駅筑紫口
- ★成 果：4つの大学に所属する文系・理系の学生が，一つの見学会に集まった。資源循環と再生可能エネルギー利用（太陽光発電，バイオマス発電）の現場を体験し，説明担当者に質問した。意見交換会で，自分たちで議論のテ

写真1 エコポート九州の工場見学



写真2 学生が主導する意見交換会



マを考え、多くの意見を出し合った。見学後に、各大学でレポートを作成した。

☆課題：意見交換会までに、大学間でもっと自発的に会話できればよかった。夕食や懇親会のときに、教員が学生たちに積極的に接するべきだった。

## [No. 2] 秋期勉強会 (→写真3, 写真4)

●日時：2012年11月23日(金) 14:30～17:30

●参加者：115名

●内容：

\*総合司会：井手陽介・古永和博（西南学院大学経済学部4年）

(1) 開会挨拶：小出秀雄（西南学院大学経済学部教授）

(2) 第1講演：後潟和也（福岡県商工部国際戦略総合特区推進室 企画主幹）

「グリーンアジア国際戦略総合特区について」

(3) 第2講演：芳野浩之

（西部ガス株式会社総合企画室技術企画室 基盤整備グループマネジャー）

「エネルギーを巡る課題と都市ガス産業の現状・展望」

(4) 講演者と学生による討論会

\*コーディネーター：鄭 雨宗（福岡工業大学社会環境学部准教授）

\*学生：猿渡 涼（西南学院大学経済学部4年）、

久保田凌（西南学院大学経済学部3年）、

清川麻里（福岡工業大学社会環境学部3年）、

写真3 エネルギーに関する講演



写真4 多くの意見が交わされた討論会



吉岡宏樹（福岡大学大学院工学研究科修士課程2年），

植木裕輔（九州大学大学院工学府修士課程1年），

バトホヤグ・オンドラハ（東洋大学大学院国際地域学研究科修士課程1年），

計6名

★成 果：身近なはずなのによく知らない福岡県内の特区と都市ガス産業について、わかりやすく解説していただいた。フロアから、いくつかの質問が出された。筆者担当の「環境政策」の受講生は、最終成績に加点されるミニレポートをその場で作成した。5つの大学に所属する文系・理系の学生が登壇し、講演者に質問するだけでなく、活発に意見を出し合った。

☆課 題：本学に関しては、経済学部と法学部以外の学生の参加がゼロだった。他学部の学生も参加するような仕掛けが必要である。

### [No. 3] 研究発表会（→写真5，写真6）

●日 時：2013年2月22日（金） 13：30～18：00

●参加者：46名

●内 容：

\*司 会：鄭 雨宗（福岡工業大学社会環境学部准教授）

(1) 開会挨拶：小出秀雄（西南学院大学経済学部教授）

(2) 基調講演：山川 肇（京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）

「ファッションと3R」

写真5 福岡工業大学の研究発表



写真6 フロアからコメント



(3) 発表会

- \* 司 会：鈴木慎也（福岡大学工学部助教）、勢一智子（西南学院大学法学部教授）、  
本間 聡（九州産業大学経済学部教授）
- \* 審査委員：山川 肇（京都府立大学、審査委員長）、  
光来真弓（福岡市環境局循環型社会推進部長）、  
岡 優子（再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本（REPW）事務局長）
- [1] 中尾花蓮（西南学院大学法学部2年）  
「福岡市における水辺教育の推進について」
- [2] 網田成望・月宮史敬（九州産業大学経済学部3年）  
「原子力発電とこれからのエネルギー」
- [3] 井手陽介（西南学院大学経済学部4年）  
「住宅の環境対策～中古住宅から環境を考える～」
- [4] 伊藤尚人（九州大学経済学部1年）・渡邊里奈（西南学院大学文学部2年）  
「電力の自由化と今後の未来～電力の自由化、  
固定価格買取制度のメリット、デメリット～」
- [5] 吉岡宏樹（福岡大学大学院工学研究科修士課程2年）  
「従量制指定袋の導入下におけるペットボトル搬出行動の実態に関する研究」
- [6] 村上忠充・山田まどか・清川麻里（福岡工業大学社会環境学部3年）・  
樋口敬晃（同2年）  
「北東アジアのLNGパイプラインの可能性と課題」

(4) 表彰式&総評：山川委員長

- ★成 果：ファッション好きな学生が循環型社会に関心を持ってくれるような、独創的な講演をしていただいた。ホームページの告知を見て応募した学生も含めて、5つの大学に所属する多様な専門の学生が集い、日頃の研究成果を発表した。個人による優れた研究もあれば、ゼミ単位の協力を要する研究も充実していた。違う大学の経済学部と文学部の学生がタッグを組むと、いった、展開が楽しみなコラボレーションが見られた。審査委員だけでなく、フロアからも多くの質問やアドバイスが出された。
- ☆課 題：大学が休業の期間であるため、就職活動や卒業旅行などを理由に、主催者である小出ゼミの学生があまり集まらなかった。個人と団体の研究を、同じ基準で審査するのは難しいことがわかった。審査発表を待たずに退場した学生がいた。

[No. 4] 春期勉強会 (→写真7, 写真8)

●日 時：2013年6月7日(金) 13:30~17:20

●参加者：124名

●内 容：

\*司 会：勢一智子（西南学院大学法学部教授）

(1) 開会挨拶：小出秀雄（西南学院大学経済学部教授）

(2) 基調講演：寺松一寿

（株式会社寺松商店／株式会社ペーパーリサイクリング専務取締役）

「博多港から発信する古紙リサイクル業の国際戦略

古紙リサイクル業界の現状と課題～弊社を事例にして～」

(3) 「ふくお環かんたび」コンテスト 主催：福岡環境学際フォーラム

\*司 会：松田晋太郎（環境テクノス株式会社企画開発部）

\*審査委員：寺松一寿（株式会社寺松商店、審査委員長）、

近藤政一（ジャパン九州ツーリスト株式会社代表取締役）、

齋藤かおり（特定非営利活動法人グラウンドワーク福岡事務局次長）

[1] 平野朱華・黒雲咲保里・野口真未（福岡工業大学社会環境学部2年）

「マイバックを持って行く！西新ぶらり旅」

[2] 山田志桜里・福永晶紀・田中成美（西南学院大学文学部2年）

「大自然を満喫！いとしい糸島の旅」

[3] 梅野翔平・堀口翔平・樋口友樹（西南学院大学経済学部4年）

「福岡再発見～君はまだ何も知らない～」

写真7 古紙リサイクルの最前線



写真8 「能古島への旅」のPR



- [4] 中牟田隆太・森田 涼・久保田 凌（西南学院大学経済学部4年）  
「早良区環たび」
- [5] 中尾花蓮・大河内 瞳・小林美穂（西南学院大学法学部3年）  
「法学女子のエコ東区見聞録♪」
- [6] 岡部圭悟・谷口瑞樹・窪 純弥（西南学院大学経済学部4年）  
「能古島への旅」
- [7] 梅野遙菜・寺田沙織（西南学院大学経済学部3年）・  
積菜以子（西南学院大学法学部3年）  
「道真と緑に触れるぐるり旅～エンジョイコミュニケーション～」
- [8] 樋口敬晃・高田喜一郎・阿比留高典（福岡工業大学社会環境学部3年）  
「自転車めぐる糸島の食・自然サイクリングツアー」

(4) 表彰式&総評：寺松委員長，近藤委員，齋藤委員

\*司 会：鄭 雨宗（福岡工業大学社会環境学部准教授）

◎優秀企画賞：[2][5][7]，特別賞：[3][8]（順不同）

★成 果：古紙リサイクルの最前線で活躍している方から，独自の経営戦略に関する解説をしていただいた。筆者担当の「環境政策」の受講生は，最終成績に加点されるミニレポートをその場で作成した。「ふくお環<sup>かん</sup>たび」コンテストには8チームが出場し，8分しかないPRタイムの中で，自らの企画の魅力を十分に披露した。多くのチームでは，役割分担がうまくできていた。フロアとの質疑応答も活発だった。

☆課 題：これまで採用してきた審査委員会による審査はもちろん有効であるが，参加者も審査に関われるようなやり方も，参加者の数を増やすために試してみる価値がある。特別賞の表彰状を1枚しか用意していなかったため，もう1チームの表彰状は後日発注，贈呈する形になった。こういう物品も，余裕を持って準備すべきである。

#### 【No. 5】福岡・大分・熊本の施設見学会（→写真9，写真10）

●日 時：2013年8月19日（月）～20日（火）

●参加者：西南学院大学小出ゼミ23，福岡工業大学鄭ゼミ15，

（公社）福岡県産業廃棄物協会1，計39名

写真9 森林の中を歩いて見学



写真10 寸劇を用いたグループ発表



●旅 程：博多駅筑紫口→山田サービスエリア（福岡県朝倉市）〔昼食，施設見学〕  
→九州電力株式会社八丁原地熱発電所（大分県九重町）→株式会社トライ・ウッドの社有林（大分県日田市）→内牧荘（熊本県阿蘇市）〔懇親会，宿泊〕→阿蘇にしはらウインドファーム（熊本県西原村）→桜の馬場城彩苑〔昼食〕→同多目的交流施設にて意見交換会→博多駅筑紫口

★成 果：2つの大学に所属する学生が，一つの見学会に集まった。再生可能エネルギー利用と豊富な森林資源の現場を体験し，説明担当者に質問した。意見交換会で，自分たちで議論のテーマを考え，グループ（大学・学年混成）で発表した。寸劇でわかりやすく発表するグループもあった。見学後に，各大学でレポートを作成した。

☆課 題：参加した大学数および人数が，前年の見学会より少なかった。事前の注意が徹底しておらず，山道を歩くのに不適当な履物の学生がいた。懇親会において，一部の学生は大学を超えて交遊を深めたものの，それ以外は同学年の中で話すにとどまった。

#### [No. 6] 秋期勉強会（→写真11，写真12）

●日 時：2013年11月22日（金） 13：00～16：40

●参加者：106名

●内 容：

\*司 会：中牟田隆太・岡部圭悟（西南学院大学経済学部4年）

(1) 開会挨拶：小出秀雄（西南学院大学経済学部教授）



(2) 基調講演：陶野郁雄（元国立環境研究所，元山形大学）

「ゆれる大地・しずむ大地 ―地盤の災害―」

(3) 「ふくお環<sup>かん</sup>たび」グランプリ決定戦 主催：福岡環境学際フォーラム

\*司 会：縄手脩平・松久貴恵（西南学院大学経済学部4年）

\*参加者全員が投票し，最多得票を獲得したチームがグランプリ

[1] 梅野翔平・堀口翔平・樋口友樹（西南学院大学経済学部4年）

「福岡再発見～君はまだ何も知らない～」

[2] 樋口敬晃・高田喜一郎・阿比留高典（福岡工業大学社会環境学部3年）

「自転車めぐる糸島の食・自然サイクリングツアー」

[3] 中尾花蓮・大河内 瞳・小林美穂（西南学院大学法学部3年）

「法学女子のエコ東区見聞録♪」

[4] 梅野遥菜・寺田沙織（西南学院大学経済学部3年）・

積菜以子（西南学院大学法学部3年）

「道真と緑に触れるぐるり旅～エンジョイコミュニケーション～」

[5] 山田志桜里・福永晶紀・田中成美（西南学院大学文学部2年）

「大自然を満喫！いとしい糸島の旅」

(4) 表彰式&総評：小出秀雄，陶野郁雄

◎グランプリ：[4]

★成 果：東日本大震災以降誰もが気になっている，地震や地盤沈下に関する知識を，趣向を凝らしたお話で学んだ。3年ゼミ渉外の前田一美が講演者と打ち合わせを重ね，講演内容を選定した。筆者担当の「環境経済学」の受講生は，最終成績に加点されるミニレポートをその場で作成した。「ふくお環<sup>かん</sup>たび」グランプリ決定戦には，前回のコンテストで優秀企画賞と特別賞を獲得した5チームが出場し，12分の持ち時間の中で，自らの企画の実施報告を行った。最終的には[4]のチームがグランプリを獲得したが，どのチームも工夫された内容だった。

☆課 題：フライヤーに厚めの上質紙を使い，小出ゼミで手分けして配布したにもかかわらず，投票数は約70票と，思ったほど集まらなかった。こういう企画コンテスト自体は，動員を促すのに有効ではあるが，平日午後は講義があつて来られないという学生も多いと聞く。今後は，別の曜日（例えば土曜日や祝日）の開催も検討すべきである。



写真11 専門家による丁寧な解説



写真12 グランプリのチーム



## 5. おわりに

本資料では、西南学院大学の「教育インキュベートプログラム」の一つとしてふくお環<sup>かん</sup>ゼミが定期的で開催している、超大学イベントの実施内容を紹介した。今後も引き続き、小出ゼミ生等の協力を得ながら同様のイベントを企画・運営していくが、その都度課題を明らかにし、それをできる限り解決するよう心掛ける。

加えて、「施設見学会→秋期勉強会→研究発表会→春期勉強会→…」というルーティンがマンネリズムに陥らないように、新しいアイデアを常に出していくことが必要である。

2013年度の春期勉強会および秋期勉強会において、同時開催の形をとった「ふくお環<sup>かん</sup>たび」(コンテスト)事業は、筆者と日常的に意思疎通している岡重男((公社)福岡県産業廃棄物協会, 福岡環境学際フォーラム運営メンバー)が応募を提案したものである。事業の企画書も、彼がほとんどすべてを書き上げた。筆者はそれを見て、こういう学生参加型企画と組み合わせるのも面白いなと感心した。

外部資金を獲得することは当然、活動を円滑に進めていく拠り所として重要であるが、前述のルーティンに新しい要素を盛り込めるという「動き」が生まれ、今度はみんなでこういうゲームにチャレンジしようという「新鮮さ」が生まれる。実際、この「ふくお環<sup>かん</sup>たび」事業によって学生同士は自分たちの新たな可能性に気づき、運営しているわれわれも、予想をはるかに超える成果を得るに至った。

本資料の内容は、超大学イベントのみに限定しているが、「日常の取組」との相乗効果でふくお環<sup>かん</sup>ゼミの学生が徐々に自信を持ち、ついには学生が自らの言葉で、

写真13 ポスターをPRする3年小出ゼミ有志



自分たちが取り組んでいることを社会に向けて発信できるならば、これは最高の成果である。

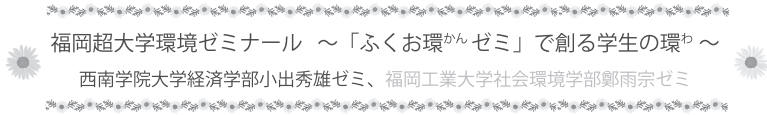
写真13は、2013年11月2日に九州大学伊都キャンパスで開催された、Q-conference 2013のポスターセッション「PR タイム」の1ショットである<sup>7</sup>。わずか3分間で、ふくお環かんゼミの魅力（図表6がこのときのポスター）を伝えなければならない、という難易度の高い「課題」であったが、事前に少し打ち合わせをただけで、ポスターの要点を踏まえた、堂々とした口頭発表が披露された。

多くの大学関係者が見守る中で、学生がこのようなパフォーマンスをするのはレアだったようだが、教育改善について発表し合う場で、主役である（はずの）学生が自らその成果を語るの、ある意味当然のことかと思う（写真14）。

近い将来、「われわれで全部やるから、小出は黙っていてくれ」と言われるくらいに、自分たちで率先して物事を進めてくれる学生が出てきてくれたら、と切に願う。

7 主催者である Q-Links（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク）のホームページにおいて、この PR タイムの様子を写真で見ることができる（[http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/util/util1\\_read.php?kind=&word=&page=&B\\_Code=1043](http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/util/util1_read.php?kind=&word=&page=&B_Code=1043)）。なお、このポスターセッションのふくお環かんゼミからの発表者は、小出秀雄、鄭 雨宗、小出ゼミ 8 名（樋口友樹、林 純平、梶野純輝、安田忠義、岩田崇史、圖師絵里奈、仲光美優、鹿毛晴香）、鄭ゼミ 2 名（樋口敬晃、道上太久洋）の計 12 名である。

図表6 ふくお環かんゼミの紹介ポスター



### 1. 取組の目的

福岡県中圏には多くの大学があり、その多くの学部・専攻やゼミ・研究室において、環境問題・エネルギー問題を学ぶことができる。とはいえ、環境問題は自然現象から人間の振る舞いに関与、深く複雑なプロセスから構成されており、単一の学部分野を学ぶだけでは理解できるものではない。また、環境問題自体が多岐に及ぶため、学生が積極的に関与したい問題について担当教員がよく理解していないことが原因で、例えばゼミ内でのレポートや卒業論文の作成において有益な指導ができていないこともしばしばある。

そこで、「福岡超大学環境ゼミナール」(以下「ふくお環かんゼミ」とよぶ)は、環境問題の効果的な教育方法を確立するため、次の3つの目的を掲げる。

- (1) 文系・理系の学生が定期的集まり、ともに学ぶ機会を創る。
- (2) その学生たちが主体的に協同し、双方の研究分野を理解しようとする。
- (3) 学生を指導する立場の教員がその活動を見て、自身の教育姿勢を改善する。

### 2. 達成目標

#### 【目標1】母体である小出ゼミメンバーの積極的な活動

- ・ふくお環かんゼミのリーダー(小出ゼミの各学年幹事)がコアメンバーを整理し、小出ゼミのメンバーおよび他大学のゼミ・研究室の代表者に必要な連携をする。
- ・勉強会や討論会、研究会などで発表者・聴取者に積極的に参加し、一定の成果を挙げる。
- ・ふくお環かんゼミの運営に、すべてのメンバーが持てる力で関与する。

#### 【目標2】文系・理系を超えた環境問題および研究手法の相互理解

- ・勉強会やゼミで同じものを聞かせて、その感想を言い合うことができる。
- ・研究会や研究会会でお互いの取り組んでいることをある程度理解しあうとともに、相互の意見を述べることが出来る。
- ・研究会や研究会会場で得た情報を、自分たちの研究に役立てることが出来る。

#### 【目標3】ゼミ・研究室の担当教員の姿勢の変化

- ・一定の行事に参加して、自分たち・研究室のメンバーの活動に良い変化を見出す。
- ・自分自身の教育内容に取り入れたい、新たな発見がある。
- ・その発見を、教育内容に実際に反映させる。

### 3. 実施内容

本取組である「ふくお環かんゼミ」は、西南学院大学経済学部の小出秀雄ゼミの学生(演習I)を履修している3年生と演習IIを履修している4年生を合わせた約30名を中心として、環境問題を学んでいる福岡市内の大学の文系・理系のゼミおよび研究室の学生有志と協同し、以下の3種類の行事を実施している。

#### 【行事1】福岡県およびその近隣自治体の環境エネルギー関連の施設見学

2012年7月(月)～21(水) (熊本・大分・大田)	2013年9月(月)～20(水) (福岡・大分・熊本)
見学先: 東工コークス九州、セキヤヒズメガソーラー・大田炭焼窯、大田田成寺 炭焼窯 参加者: 西南学院大学、福岡工業大学、九州工業大学、九州大学の学生および教員計 46名	見学先: エコエリト山田、八丁製糖製糖所、南トライアウト、阿蘇にはら5ワインドファーム 参加者: 西南学院大学、福岡工業大学の学生および教員、計 39名



#### 【行事2】講演と討論から成る勉強会

平成24年度 秋勉強会 2013/11/23(金)夜・年輪...	平成25年度 春勉強会 2013/6/7(金)夜・年輪...	平成25年度 秋勉強会 2013/11/23(金)夜・年輪...
2講演会討論会 参加者 115名	1講演&5発表 c/w「ふくお環かんゼミ」 コアリスト 参加者 124名	1講演&5発表 c/w「ふくお環かんゼミ」 コアリスト 参加者 7名

1. 本取組「ふくお環かんゼミ」の紹介ポスター 制作
2. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
3. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
4. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
5. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
6. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
7. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
8. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
9. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学
10. 福岡県内の大学・自治体の環境エネルギー関連施設の見学

#### 【行事3】日常の研究の成果を披露し質疑応答する研究発表会

平成24年度 研究発表会 2013/2/22(金)夜・年輪...	平成25年度 研究発表会 2014/2/20(木)夜・年輪...
1講演&6発表 参加者 46名	1講演&7発表 参加者 7名

### 4. これまでの成果と今後の展開

#### 【成果】学生に少しずつ業務委託 → よい成果の方向

→ 自発的に企画し、動いてくれるようになるか?

#### 【課題】卒業や進級 → 各ゼミ・研究室のメンバーが交代

→ 引き継ぎ、良好な関係を保てるか&築けるか?

#### 【課題】西南学院大学の教育プロジェクト → 3年間限定

→ 外部資金を活用しつつ、長期の取組へと進化?



出所: 岡重男作成, 2013年11月2日の Q-conference 2013 に出席。

写真14 ポスター発表を終えて



撮影：古賀照久（福岡工業大学コンソーシアムオフィス事務局長代理）

6. ふくお環<sup>かん</sup>ゼミのこれまでの発表実績

- (1) 小出秀雄「福岡超大学環境ゼミナールの取り組みについて」, 第8回一橋・西南交歓ゼミ（研究発表会）, 一橋大学, 2012年9月9日。  
〈<http://fukuokanzemi.seesaa.net/article/291500174.html>〉
- (2) ——「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ）の概要」, 第16回（西南学院大学）大学改革フォーラム, 西南学院大学, 2013年6月19日。  
〈[http://www.seinan-gu.ac.jp/education\\_research/forum/forum\\_list/forum\\_16.html](http://www.seinan-gu.ac.jp/education_research/forum/forum_list/forum_16.html)〉
- (3) ——「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ）を通じた学生の基礎能力向上の模索」, 第62回九州地区大学一般教育研究協議会, 学際・キャリア・初年次教育部会 A, 琉球大学, 2013年9月6日。  
〈<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/kyougikai-schedule.pdf>〉
- (4) 西南学院大学経済学部小出秀雄ゼミ・福岡工業大学社会環境学部鄭雨宗ゼミ「福岡超大学環境ゼミナール～「ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ」で創る学生の環わ」, Q-conference 2013ポスターセッション, 九州大学伊都キャンパス, 2013年11月2日。ポスターの作成は岡重男, 発表者は計12名。  
〈[http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/util/util\\_read.php?kind=&word=&page=&B\\_Code=986](http://www.qlinks.kyushu-u.ac.jp/util/util_read.php?kind=&word=&page=&B_Code=986)〉

## 7. ふくお環<sup>かん</sup>ゼミに関わった、あるいは関わっている小出ゼミ生

### 【13期生】

西村 隼, 古永和博, 森光和也, 猿渡 涼, 永松司早, 御堂二美予, 山口晃侍郎,  
井手陽介, 福田祐樹, 北山優唯, 筒井 萌, 垂野翔平 (幹事), 山際佑依,  
古庄敬之, 小川紗季, 松村 誠

### 【14期生】

中牟田隆太, 岡部圭悟, 久保田 凌, 樋口友樹, 窪 純弥, 堀口翔平,  
岩本宏治 (幹事), 児玉 梓, 梅野翔平, 森田 涼, 谷口瑞樹, 松久貴恵,  
縄手脩平, 吉田壮宏

### 【15期生】

内田有紀, 梶野純輝, 安田忠義, 林 純平 (幹事), 岩田崇史, 圖師絵里奈,  
西川智也, 仲光美優, 前田一美, 平野 藍, 松野 彩, 鹿毛晴香, 石川晴香